

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK)

令和元年アーバンデザインスクール 前期 第二期

地域資産を都市に活かす

アーバンデザイン講座 第二弾



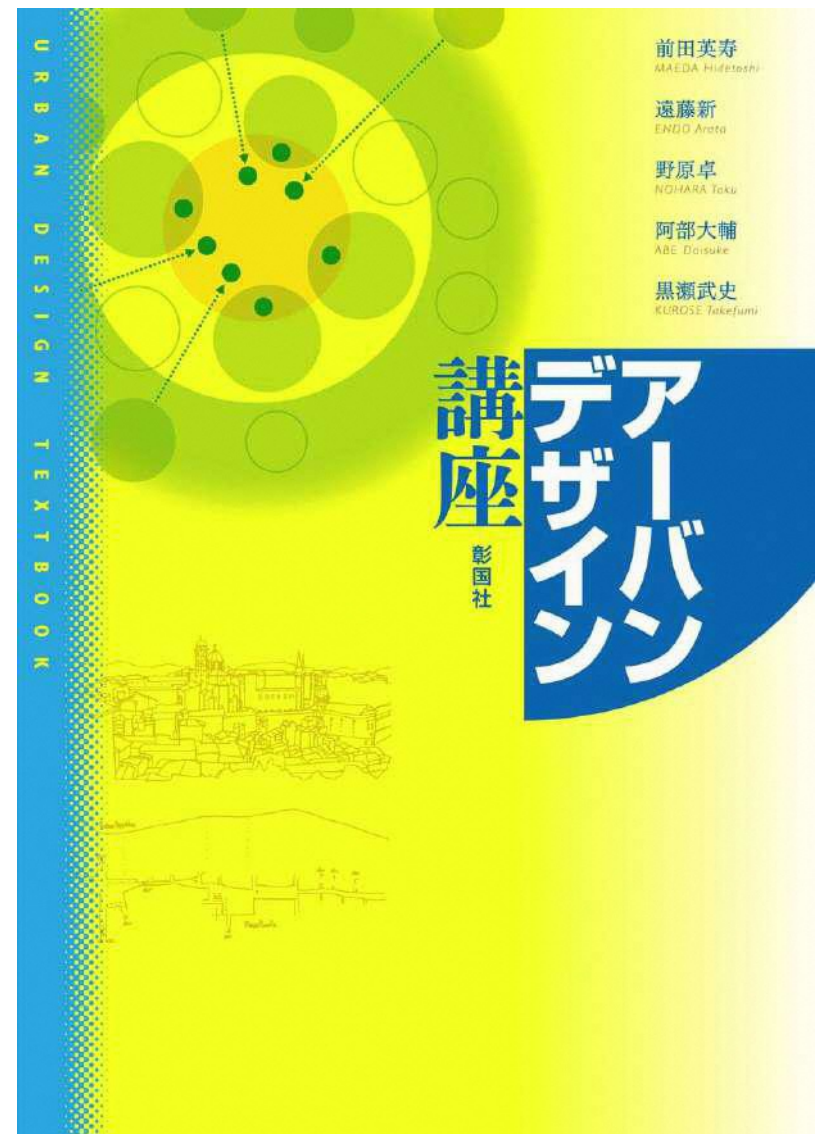
2019年 07月19日

野原 卓

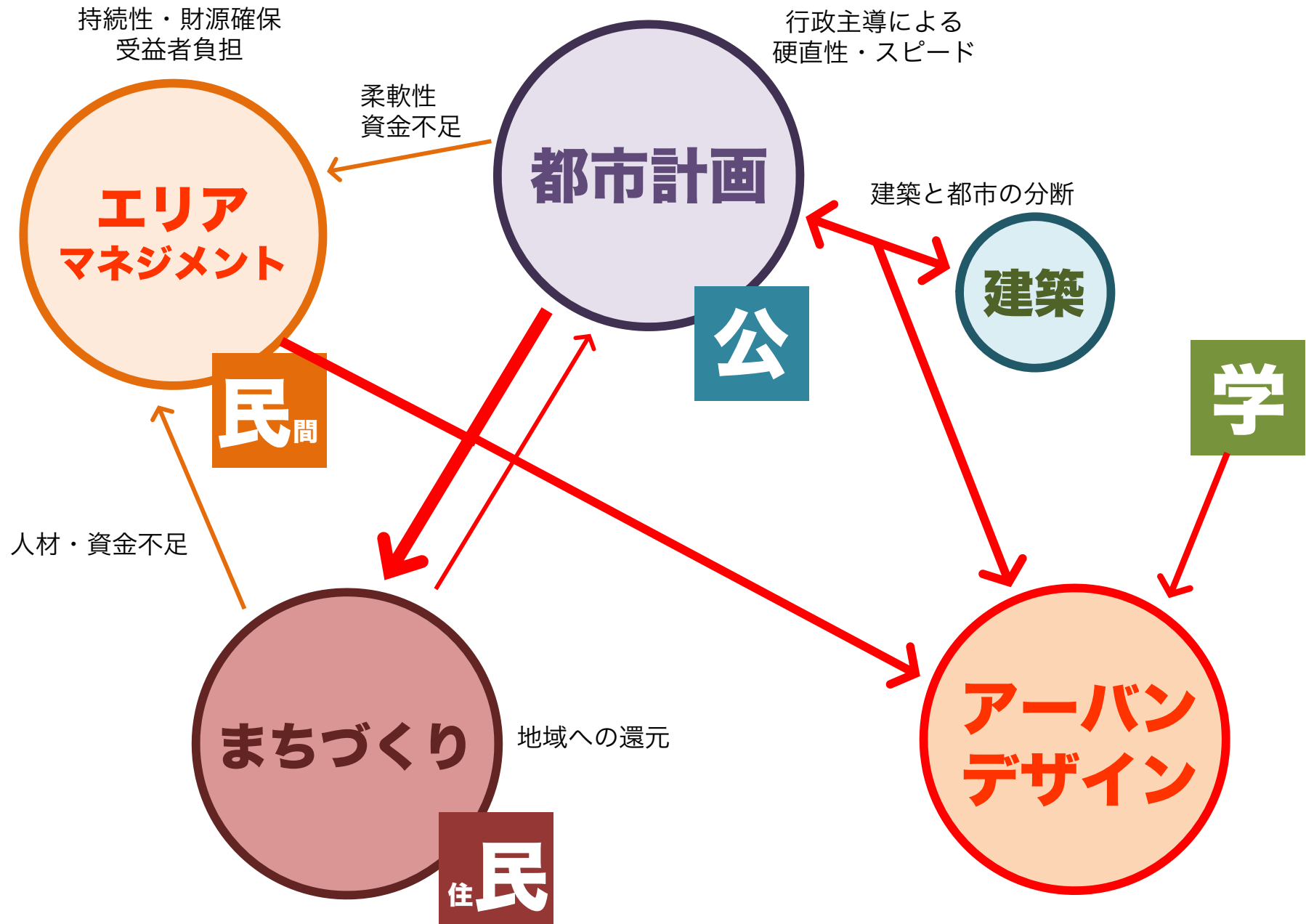
横浜国立大学大学院

都市イノベーション研究院 准教授

一般社団法人 UDCイニシアチブ 理事



アーバンデザインの発展



都市デザインが有する
7つの要素

都市の文脈を

解説

する

都市空間の将来を

構想

する

人間的な都市空間を

設計

する

主体同士のチカラを

調整

する

戦略的なプロジェクトを

実装

する

多主体とともに

協働

する

都市空間全体を

経営

する

なぜ、今、「資産を活かす」のか？

⇒我々は、まちの「価値」を高める必要がある。

① 時空間の連続が、文化を蓄積させる。

⇒我々の今は、「過去」の蓄積でできている。

⇒我々の想像できない工夫が、「過去」にある。

② 多様性、過去と未来のつなぎ手が、拒絶反応を防ぐ。

⇒新しいものだけの社会は、定着を妨げる可能性がある。

⇒新しいものだけだと、古くなったときに対応できない。

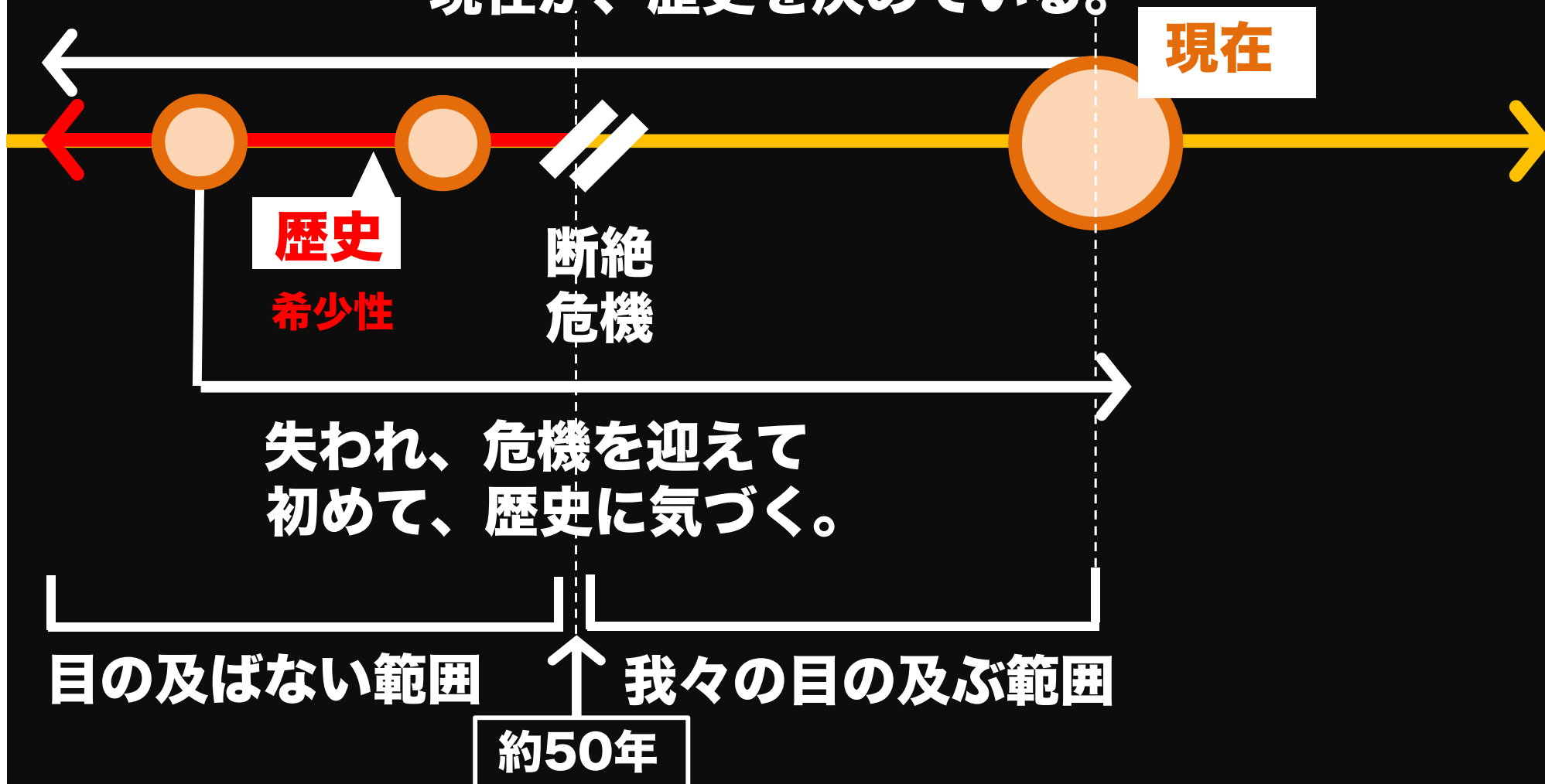
③ 縮減時代・ストック時代の社会・環境に対応する。

⇒有限時代を持続的に暮らすためにはどうしたらよいか？

① 時空間の連続が、文化を蓄積させる。

歴史は、発見される。

現在が、歴史を決めている。



「おやじ殺し」：父世代は否定、祖父世代は尊重。
⇒ 50年～60年：戦前戦後の境界線

ロイズ本社ビル (ロンドン,イギリス)



シティにある保険会社の本社ビル
【1986年竣工,設計：リチャード・ロジャース】

築30年を待たずに歴史的建造物
として登録 (Grade I)

→考え方・文化の違いで歴史的建造物
のあり方も変わってくる。

イギリスの登録歴史的建造物制度
(Listed Building)

：築30年以上

←日本の登録文化財制度

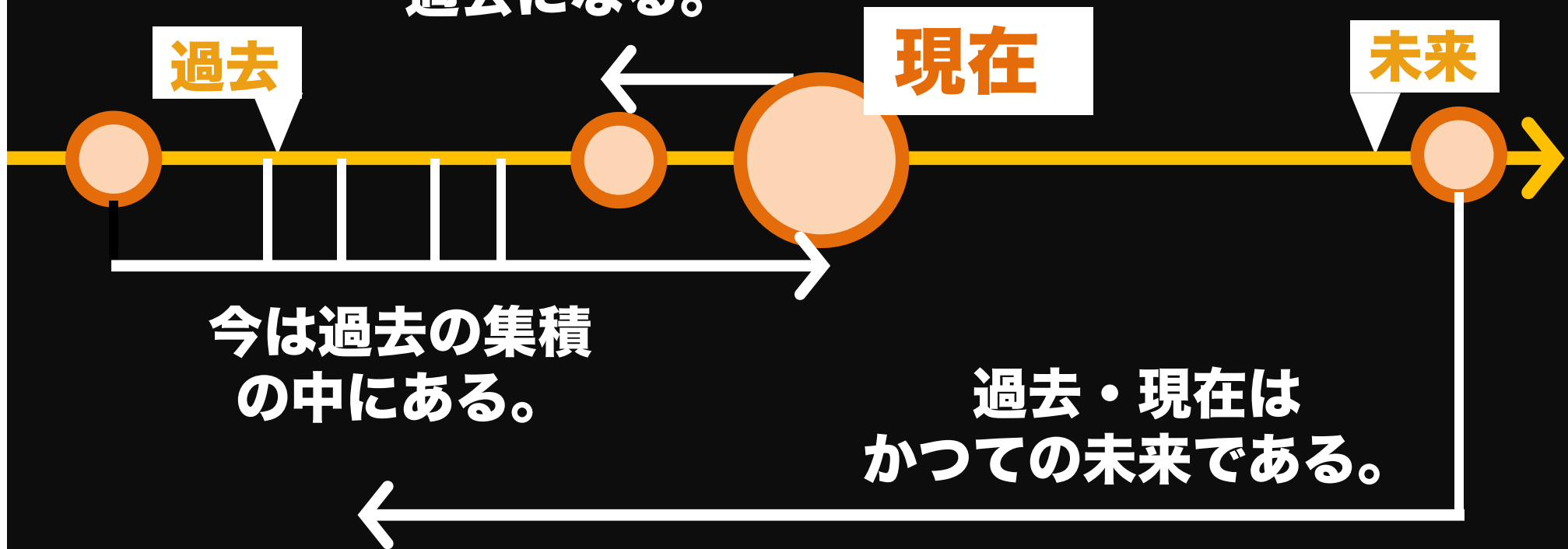
：築50年以上

① 時空間の連続が、文化を蓄積させる。

時間は連続的で、継ぎ目はない。

時間は、均等に公平に流れる・・・はずである。

今は一瞬にして
過去になる。



① 時空間の連続が、文化を蓄積させる。

都市を解読するための4つの軸

自然軸・空間軸・生活軸・歴史軸

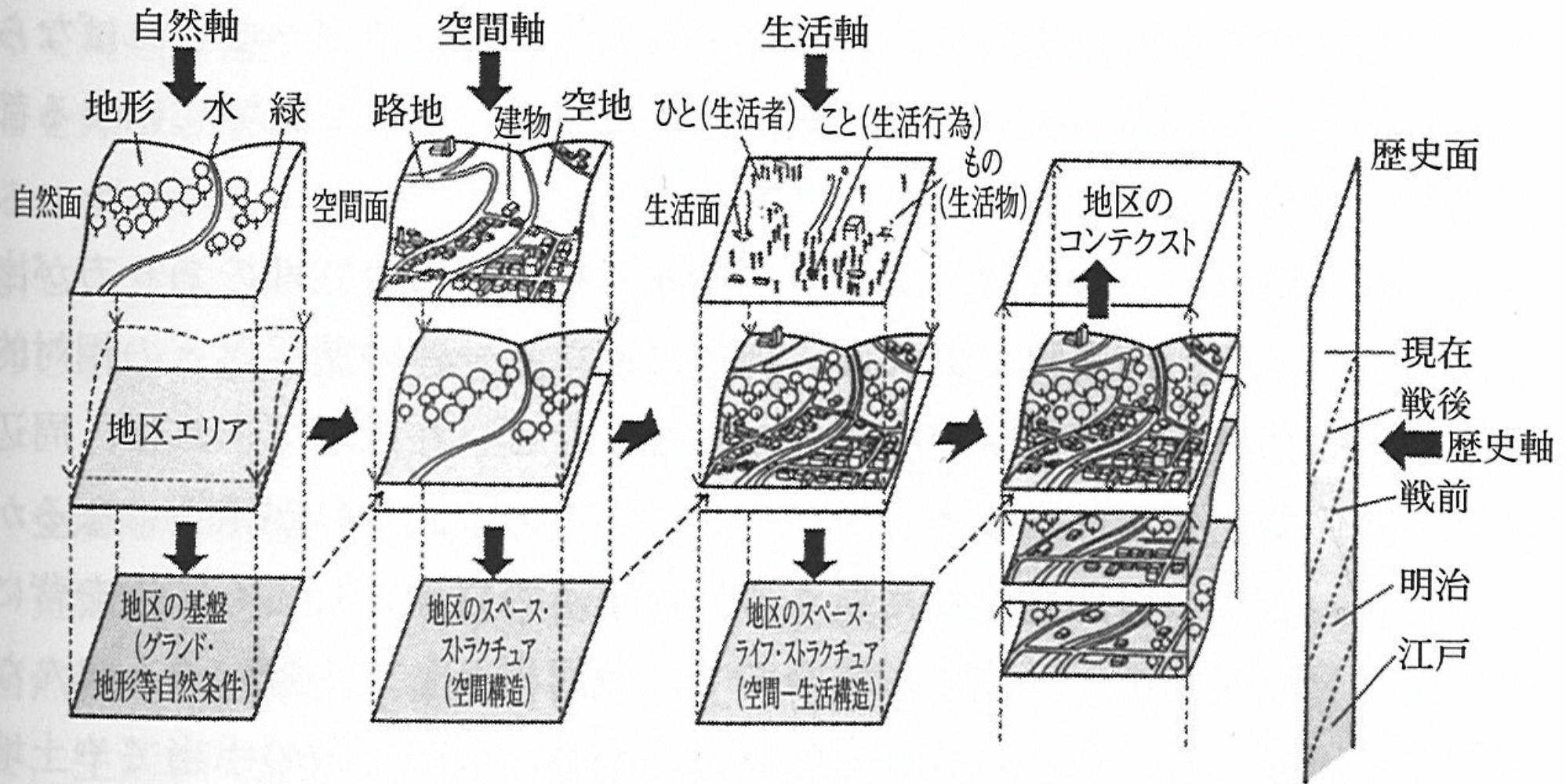


図2-1-1 自然軸，空間軸，生活軸，歴史軸による都市の読解

出典：東京都「周辺景観に配慮するための手引—地域の文脈を解読する」1997年. p. 4.

② 多様性、過去と未来のつなぎ手が、拒絶反応を防ぐ。

ジェイン・ジェイコブス

(都市計画の母)



都市の 多様性 4の条件

「条件1：混合用途の必要性」

(単一の機能ではなく、複数の機能が混じりあう)

「条件2：小さな街区の必要性」

(街区間の距離が短く、道路が沢山入る)

「条件3：古い建物の必要性」

(経済社会的にも多様な歴史の建築物が混ざる)

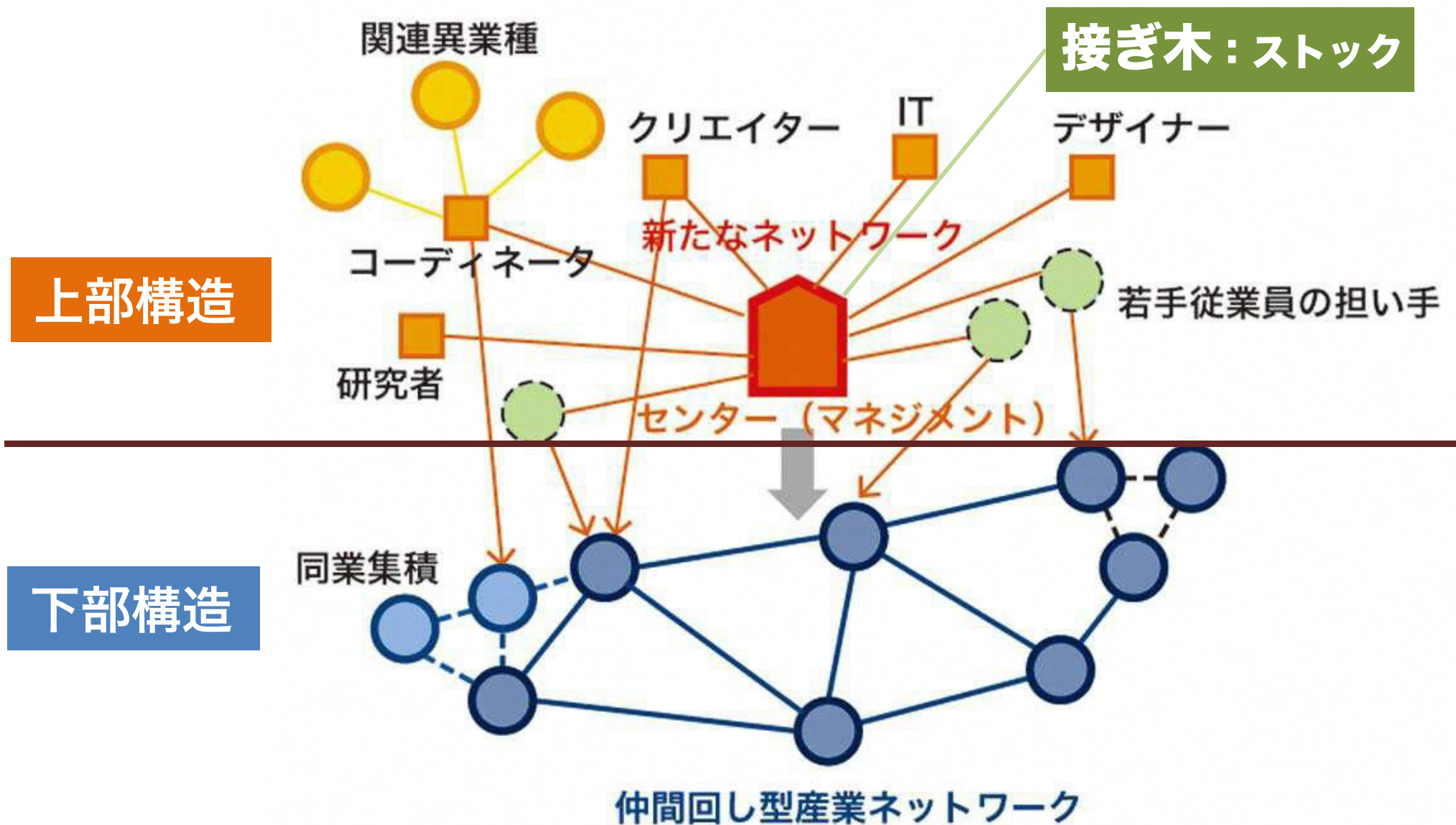
「条件4：密集の必要性」

(交流機会の高まる密集度)

② 多様性、過去と未来のつなぎ手が、拒絶反応を防ぐ。

過去と未来をつなぐ **接ぎ木**

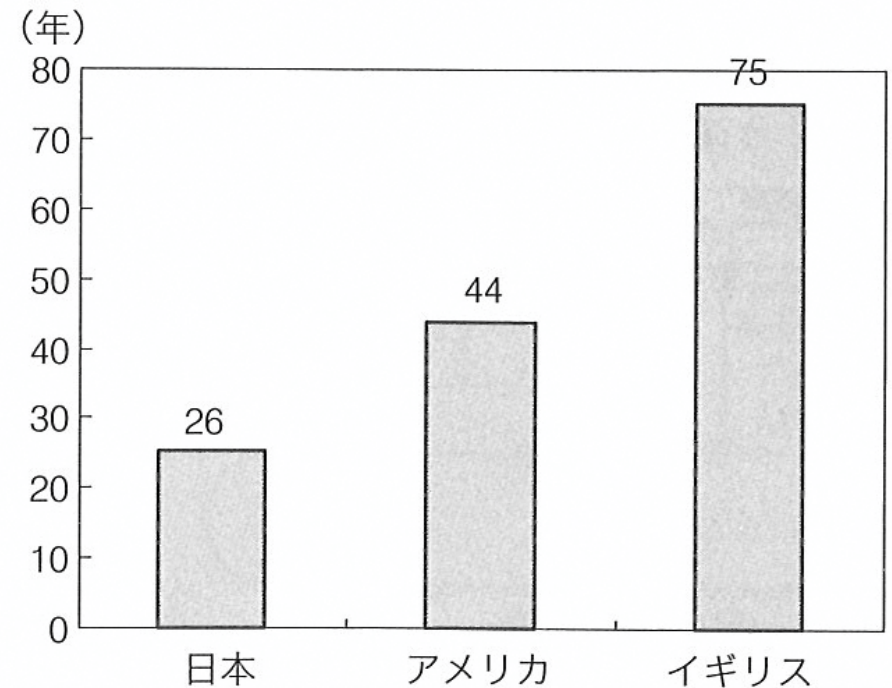
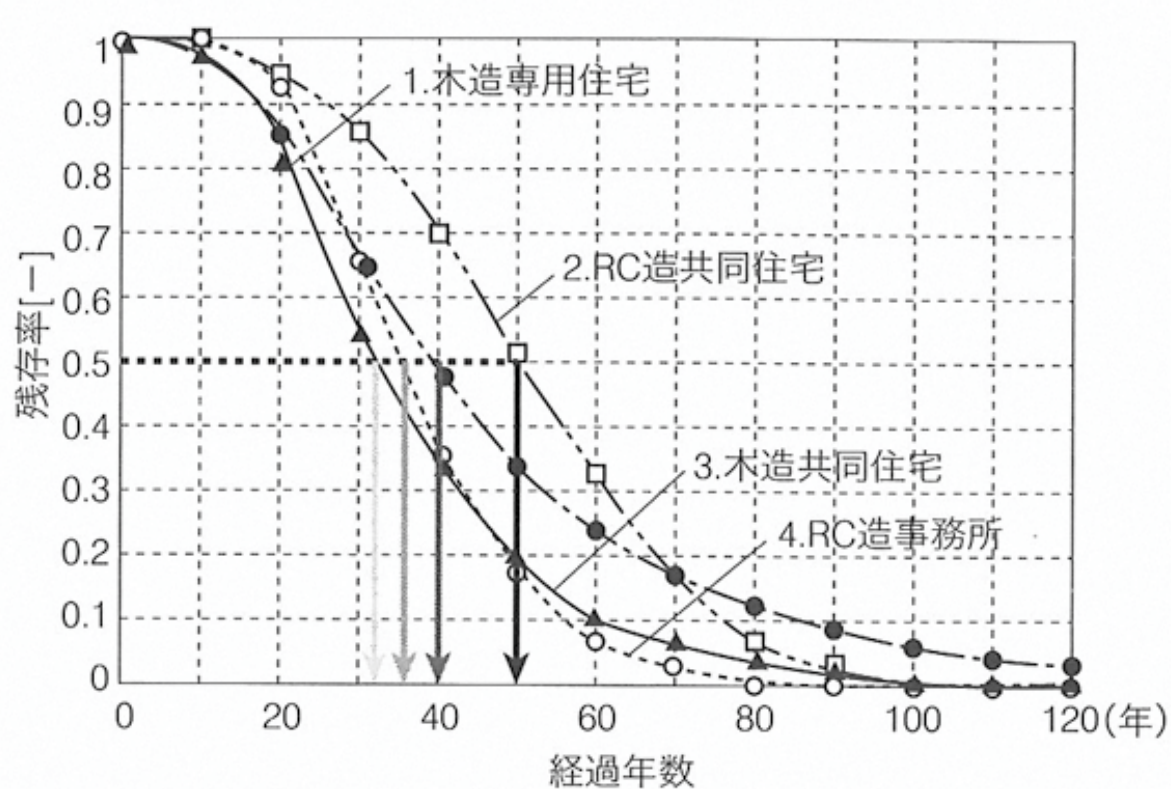
下部構造（潜在的な地域・産業の文脈）と上部構造（創造的展開）をつなぐストック。



③ 縮減時代の環境に対応する。

日本の短い建築寿命(40年)

木造：25年、鉄筋コンクリート造：50年、海外（イギリス）の1/3

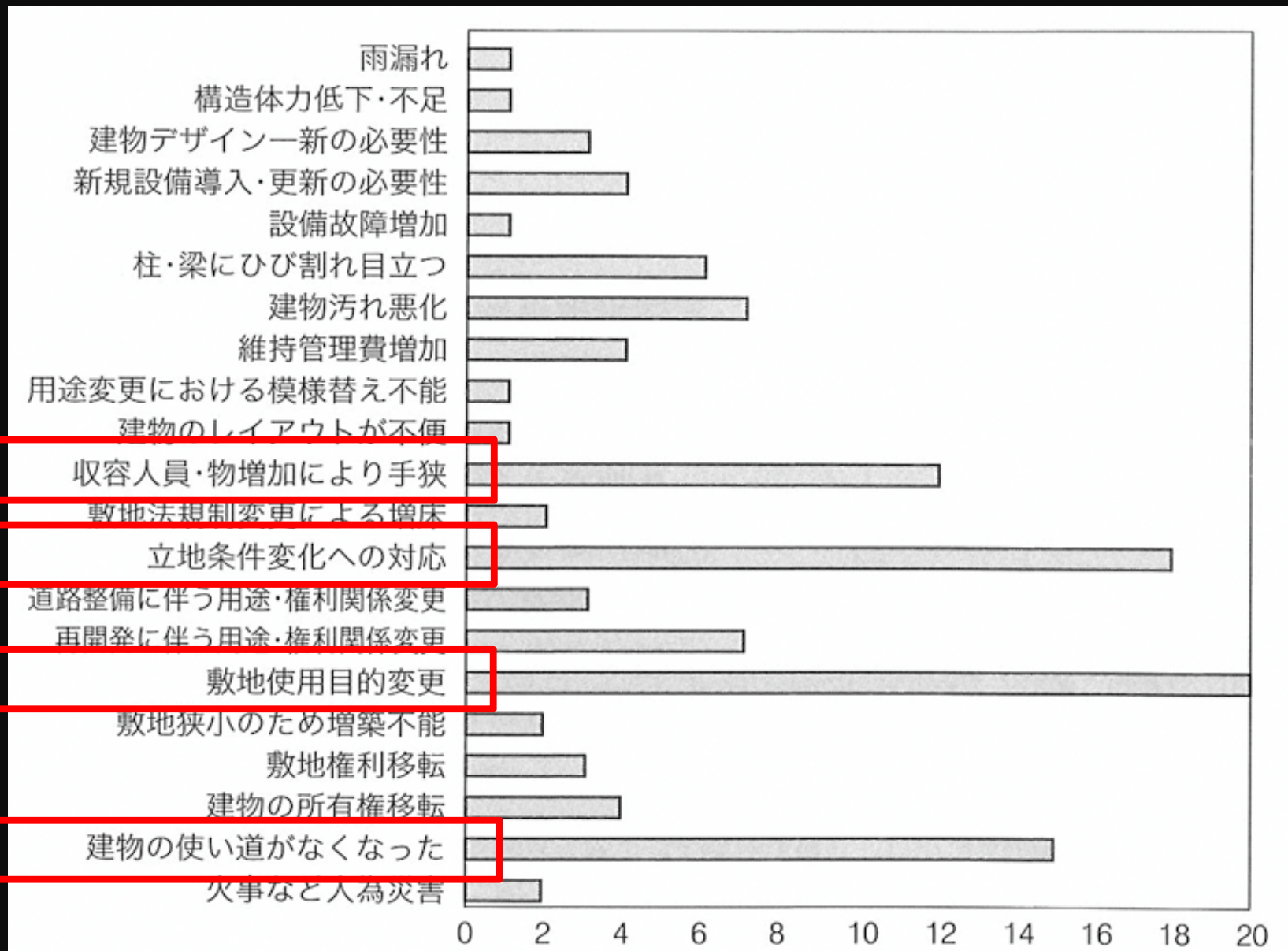


図：日本の建築寿命の実態

図：各国の建築の平均寿命

③ 縮減時代の環境に対応する。

物理的理由よりも社会的理由が要因。

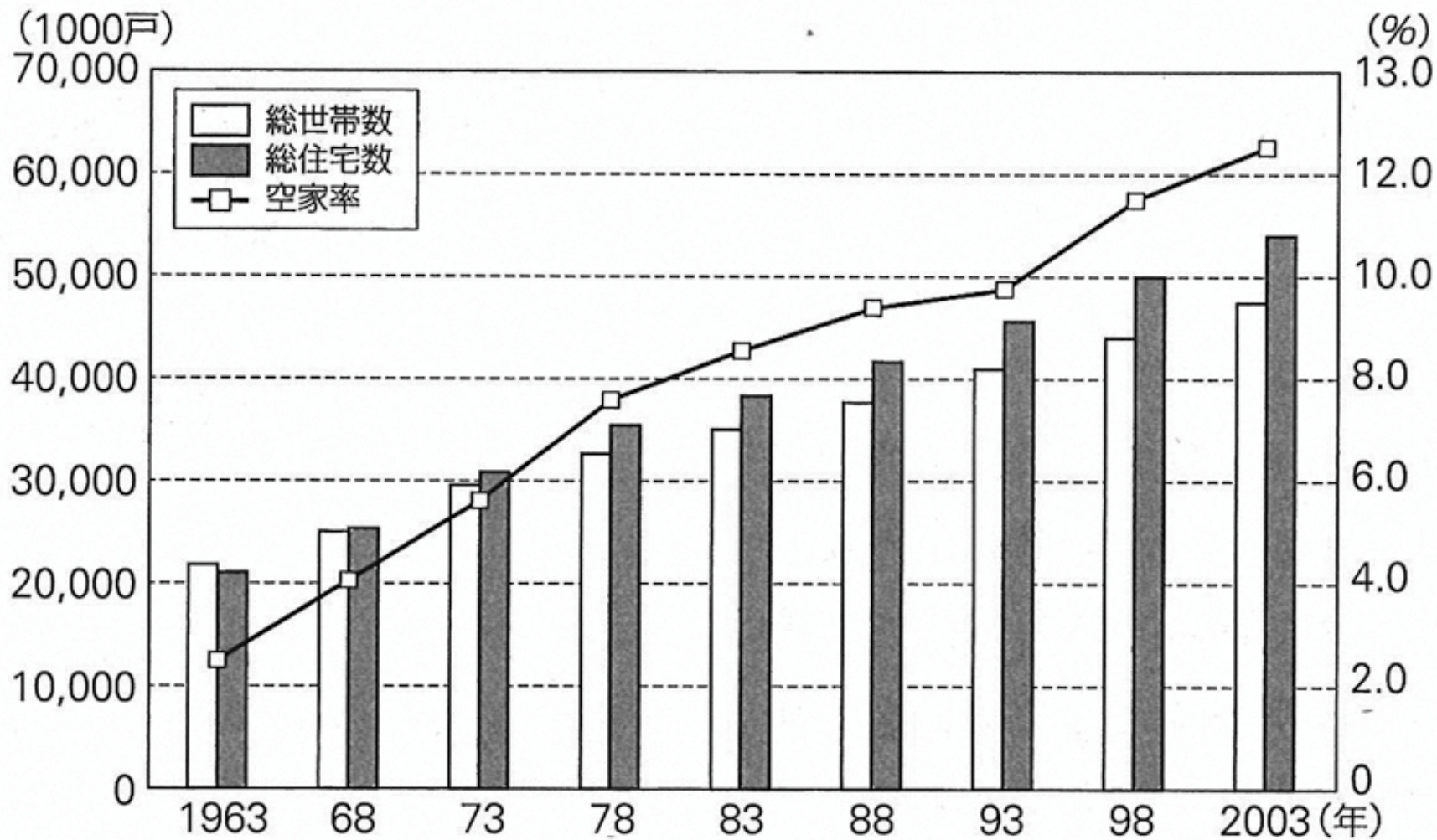


図：日本の建築取り壊しの理由

③ 縮減時代の環境に対応する。

人口減少時代における空きストックの急増

人口は減っても建物は増えている。空き空間も急増する。

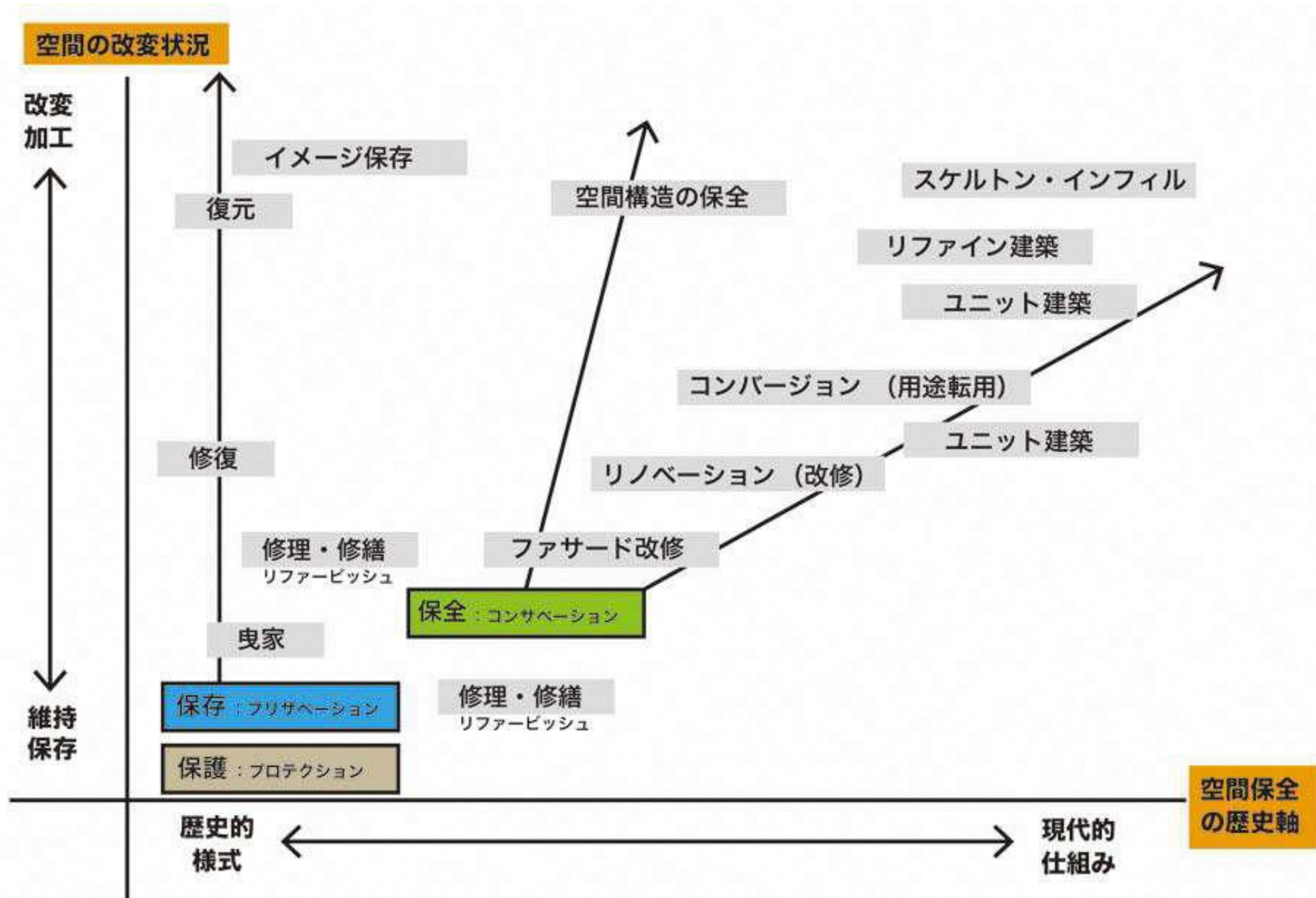


「住宅・土地統計調査」をもとに作成

図1・2 世帯数・住宅数・空家率の推移

図：世帯数・住宅数・空家率

資産を活かすための様々な手法と視点



資源を見つけるのに大切な 5 視点

1)特異点的視点

2)要素（分類）的視点

3)階層的視点

4)構造的視点

5)物語的視点